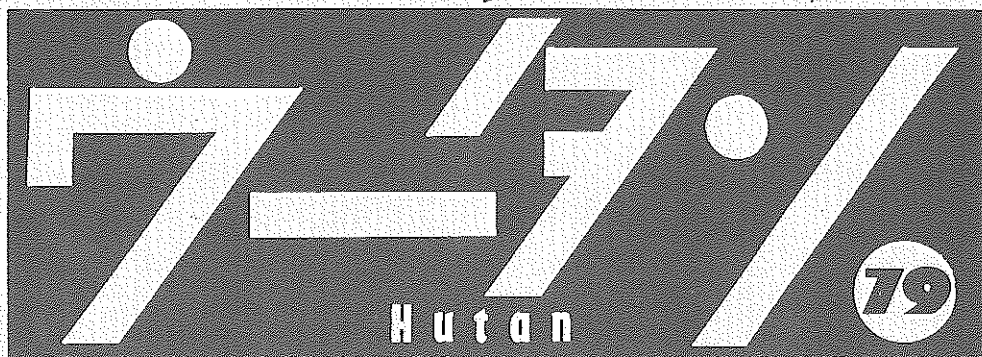


Save The Tropical Forests



森の通信

2006.4.4



〈保護されたスマン・ウータン〉

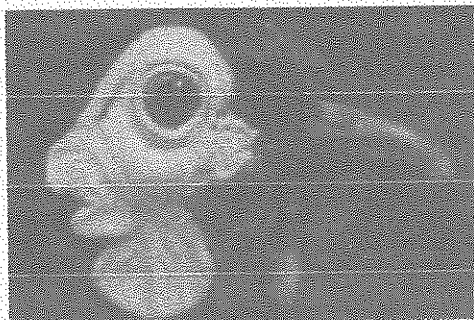
CONTENTS

- ウータン 2006年活動方針 …… 3p
- ラミン・キャンペーン報告 …… 4p
- ホルネオ島に行く (15), (16) …… 10p
- 世界の森林ニュース …… 14

インドネシア・パプア州で多くの新種が発見される。
 “ロストワールド”- 幻の極楽鳥、新種のミツスイ、新種のカエル、
 希少な木登りカンガルーが、パプア州のフォジャ山脈で発見され
 る。

Press Releases

：プレスリリース 2006年2月7日



(ワシントンDC) - 2005年12月、コンサベーション・インターナショナル(CI)を中心とした米・豪・インドネシアの科学者から構成された調査隊による、アジアでも最も秘境とされる密林、インドネシア・パプア州(ニューギニア島西部)、霧に覆われたフォジャ山脈(Foja Mountains)での調査で、幻の極楽鳥、新種のミツスイ、新種のカエル、希少な木登りカンガルーなどが発見された。

60年以上ぶりのニューギニア島での鳥類の発見となる新種のミツスイのほか、カエル類、蝶類、植物、など数十の新種の発見は、まさに映画「ロストワールド」を彷彿とさせる。

【ウータン活動報告】

- 2005・12・13 ウータン、ラミン調査会、29回合同会議
 12・27 通信『ウータン78号』発送
- 2006・1・10 ウータン、ラミン調査会、30回合同会議
 1・11 アースデイ 2006 運営会議参加
 1・16 森林問題NGO東京での会議に参加
 1・21 地球環境基金・関西地区報告会で『やれば出来る！違法材ラミン材使用停止を』につき、西岡が報告。
- 1・24 ウータン、ラミン調査会、31回合同会議
 2・4 ウータン総会。大台ヶ原・大峰の自然を守る会・田村会長の報告後、ウータンの2006年方針提起
 2・8 国際環境NGO・FOE J (地球の友ジャパン) ら主催の『フェアウッド建築セミナー』に参加、ラミン調査会からも2名参加。
 2・11-15 シンガポール、マレーシアへ違法材調査・一部の企業に違法材使用停止申入れ——地域貿易・バートレードなど密輸の促進
 3・3 シンガポール、マレーシアの状況を林野庁で報告、*西岡
 3・4 FOE Jなど主催の日本の森林を守るNPO・NGO会議参加

ウータン・今年の方針 / 2006年総会・2月4日から

事務局長・西岡良夫

1. 「違法伐採木不使用へ自治体・企業キャンペーン」・「やれば出来る！違法材停止」の継続

①「政府調達違法材排除」へ自治体等の調査・キャンペーン」・政府調達材の調査(継続)

- A) 05年都道府県アンケートで「違法材使用停止宣言検討」「指名停止検討」の回答、
- B) 4月から政府は公共調達材で「違法材排除」方針・行動で、4月～公共材(合板・製材・学校丁度品など)調査を実施、
- C) 資料収集3-6月、
- D) 5月～自治体へ質問、話し合い
- E) 自治体へメール「違法材不使用を！」葉書でPR、
- F) 自治体の新違法材(ウリン、メルバウ等・製材品輸入)使用調査を4月～

②「政府調達違法材排除」へ企業調査」・(すぐ交渉は時間的に困難、秋?)

- A) 調査・4月-10月、12-3月を第2期
- B) 質問-9月頃、結果11月
- C) 話し合い等-12月
- D) 対象-i]製材(ウリン、メルバウ他)、ii]合板(インドネシア産、ロシア産等)、iii]学校関係

③「違法材ラミン停止企業キャンペーン」・(完結編)2月-4月で

④「違法材停止国際キャンペーン」・海外NGO連携しラミン等販売海外日系企業へ停止依頼

- A) 時期-2月、6月か7月、10月
- B) インドネシア・スラバヤ等、シンガポール、マレーシア

⑤違法伐採問題、「停止宣言自治体・優良企業」、消費者への広報」・消費者へPR、世論化

- A) 「違法伐採・違法貿易」「違法材ラミン使用キャンペーン」・3-4月頃に新HPへ掲載
- B) 「停止の優良自治体、企業のPR」・5月以降?
- C) 他違法材不使用をPR(リーフ作成)
- D) 助成金申請・新違法材調査費等、
- E) フェアウッド材の学習会・報告会開催

⑥「原産地証明・樹種表示」の明示へ取り組み

⑦政府等や国際機関等へ働きかけ」継続

⑧データ収集(継続)、⑨メール等での調査、

2. 原生林保全、熱帯材使用削減への働きかけと原生林での村づくりのサポート(SCCと連携)

- ①原生林保全へ現地調査とプラン人の村づくりの支援(今年は状況を見る、次年度?)
- ②原生林材使用調査・自治体へ政府調達材使用アンケートと同時に聞く?(要検討)
- ③MTCC(マレーシア木材評価基準)の検討策・SCCやHUTAN Groupで(S Timber 関連)

3. 国産材利用と違法伐採対策・原生林の保護へ行動の検討」・フェアウッド材普及を

①「日本型森林認証木材」の利用PR、HP等「違法停止に有効」・(FOE地球の友らと連携)

- ②自治体(都道府県)との話し合いや資料収集-違法材・政府調達材の質問等も(5月以降)
- ③国内森林問題等に取り組むNGOや自然保護的な建築家、林業者との連携。(夏以降)
- ④フェアウッド材流通PR拡大を・消費者・消費者団体と話し合い・講座参加等(2月から随時)

4. その他のプログラム

- ① 12月か07年1月～2月、全国会議
- ②世界の森林状況調査等
- ④製紙用原生林破壊・アブラヤシ等資料収集・JATANらと連携
- ⑤事務局と協力者の確保、
- ⑥国内・海外NGOの連携、
- ⑦翻訳
- ⑧新規HP作成(日本語版と英語版)

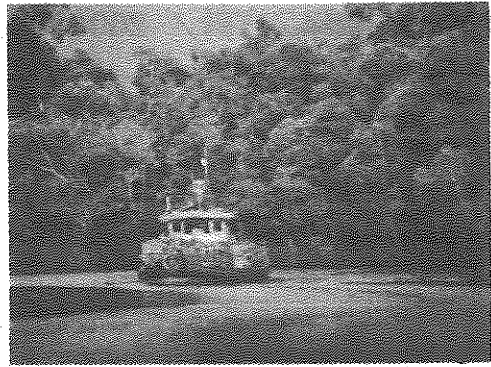
5. 財政問題

- ①カンパ等依頼、
- ②助成金、
- ③物品販売で資金、
- ④Tシャツ作成等 (決める)

《やれば出来る！ラミン材・ 違法材停止！国際キャンペーン

③》・・・インドネシア・違法伐採のGパ ルン国立公園

西岡良夫



(グスン・パルン国立公園で密伐採後に)

《インドネシアNGOから違法材の停止依頼》

05年10月10日、ボゴール市に事務所がある Telapak(テラパック)、インドネシア・フォレスト・ウオッチのメンバーを訪れる。今日は、ウータンと交流会、共同ミーティングとなった。

04年会ったメンバーと、初めての仲間。『ストップ・ラミン・キャンペーン』の方法を聞かれたので、例を出し話す。丁度ラマダンに入ったため、昼食時だが飲食、タバコも一切だめッ。朝の祈りから何もみんな口に出来ない。コーヒーも駄目。ところがハプソロ氏、ポブ氏はコーヒーを飲む。聞けばモスリム教徒でないと、。

ハプソロ氏は「インドネシアの最近の森林破壊はすさまじい。年230万haを越えるんだ。このままではインドネシアの森林はカリマンタンが2020年に消滅する。西パプアも違法伐採と密輸が続き、2020年には危機的状況になる」と説明。昨年、調査して密輸の状況をパソコンで見せてくれた。フォレスト・ウオッチのポブ氏から、インドネシアの森林破壊・伐採権等の入るCDをプレゼントしてくれた。

会議半ばで時間切れだ。今日Telapakのヤヤット氏とジャカルタから西カリマンタンへの調査なのだ。残念。

ジャカルタ空港から西カリマンタン州都ボンティアナックまで約2時間半の飛行。夜にこのNGOとの話合いをヤヤット氏はセットして

くれた。夕食を急いで食べ、車で事務所へと向かう。ヤヤット氏に聞けば、「最近の状況を現地NGOに聞くほうが良い」との答え。

当地の事務局長のダルマワン氏は、メンバーを紹介。ヤヤット氏は、私たちの『ストップ・ラミン・キャンペーン』のあらましをインドネシア語で話す。みんな、大消費国だった日本の大半の企業が停止したので、興味深いのだ。質問攻めに会う。

メンバーの1人は、「中カリマンタンと西カリマンタンの原生林を違法伐採し、日本企業が関与しているので、停止するよう力を貸してほしい」と言う。私は、「もしウータンが日本企業へ停止依頼行動を取るとしても、数枚の写真、地図、取引を示す情報等の確たる証拠がほしい」と告げる。ダルマワン氏が「グスン・パルン国立公園で今も違法伐採が行われており、調査してほしい。西カリマンタンでは、ラミンはこの国立公園と4箇所の国立公園や森林保護エリアしか生息していないから」と依頼して来た。

決まりだ。翌日、ボンティアナック市からグスン・パルン国立公園行きとヤヤット氏に言う。

《国立公園内でラミンなど違法材貿易を見る》

ボンティアナックからケタパン空港まで僅か40分。海岸沿いに見える森もいたたましい。

・ グヌン・パルン国立公園に行くためタクシーをヤヤット氏は探す。国立公園の麓の村に行く交通手段があまりないから。タクシーを乗ると、まず森林警察で入所許可書が必要と薦められる。その署長や他の森林警官と話して、公園への許可書も取れたが、森林警官1名も同行したとなる。

1時間半でグヌン・パルン国立公園が近づいたらしく、森らしい所が見える。だがマレーシアのような深い森でない。

トロッコ・マヌスの町で泊まることになるが、まず違法伐採・密貿易の調査だ。私とヤヤット氏は、観光客とガイドのようなふりをして、チャーターしたボートに金を払う。町ぐるみの違法行為を実施していると感じたからだ。

スピードボートは、フルスピードで川を遡行する。川幅は約30-50mくらいか。

「なぜ、この町まで来たのか、？」と聞かれ

「この川岸にテングザルが見えるので写真撮影に来た」と私はボートを操る若い男に伝えた。

「いたいた！ テングザルだ」とカメラで探る。ヤヤット氏も同じように撮影し始める。

あちこちの岸辺に何隻もの小船が停泊している。大半の船に木材が積まれていた。今度は8mばかりの船が木材を満載にして、河口へと下っていく。1隻、2隻、4隻、…と午後2時前に通り過ぎる。

私は「何という木を積んでいるのか」と聞く。ヤヤット氏はとぼけて、知らぬふりをする。すると、森林警官とボートを運転する若者がほぼ同時に言う。

「あの白く黄ばんだ木材はラミンだろう。他はウリン、メランティ、少しジュルトンも混ざっている。」

「ラミンは、この地域でほぼ取り尽くしたと聞いていた。また国立公園の中に入って切ってきたのか」と、言う警官の独り言を通訳するヤヤット氏。

川幅が狭くなり、木材を積んで下る小船を僅か1時間で12隻ほど見た。聞けば、午前11時頃と今の時間が一番多いのだそうだ。

私は川面の風景や伐採地の風景を次々と撮る。伐採が激しいのか、木がなぎ倒されて放置され、荒地になっている森林。聞けば、国立公園外だから木材会社は、どんどん森を切るのだそう。

木材集積地の小屋にボートを着ける。そこには50歳位のやる気のなさそうな一人の男がいた。聞けば彼も森林警官。だが隣の飯場は木材キャンプ。木材企業の飯場をぶらぶらしているから違法伐採の摘発など無理だろう。木材企業はPtiアラヌクスマの子会社ともう2社。

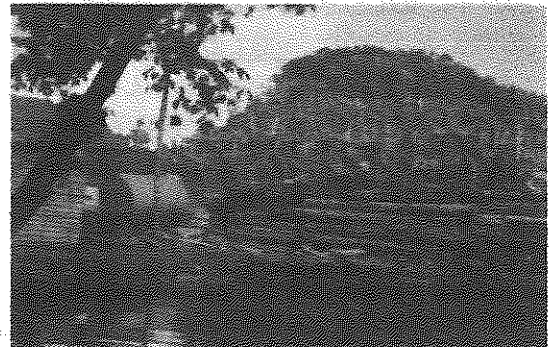
ヤヤット氏は急に疲れたらしく、飯場で眠る。私は飯場を廻りながら写真撮影。その後、森林警官に聞く。「なぜ国立公園で伐採しているの」と。

飯場のいた警官は、「さあ、金が要るしね」と。

ボート運転の若者は、雨が降るので戻ろうと言ってきた。違法材を切り出す現場を見れないのが残念だ。だが今も国立公園内で、違法伐採と違法な密貿易が続けられているのだ。

翌日、グヌン・パルン国立公園内に歩いて入る。村の入り口から3時間ばかりで、オラン・ウータンの巣をヤヤット氏が発見。だが巣だけであつた。

「オラン・ウータンも受難だよ。あんなに森林破壊しても摘発できないし、…」と同行の若い森林警官はため息をつき森の中のキャンプ地を目指した。



(国立公園そばの森林伐採/2005/10月)

一次回は「国境越えの密輸の暴露」

日本政府は『グリーン購入法』改正や「違法材排除対策」、今4月実施へ

—日本市場でほぼ【違法材ラミン販売停止】へ! 【ダメな物は駄目!】

…今年メルバウ等密輸材停止と、「フェアウッド材利用を」目指そう!!…

2006年1月10日、政府は「合法性が確認された木材・木製品のみを調達する」という内容を盛り込んだ『グリーン購入法』における判断基準などを含む見直し案と、『木材・木製品の合法性・持続可能性の証明のためのガイドライン』を発表し、2月28日に閣議決定となりました。

政府が、今回の『グリーン購入法』改正に違法材排除策を盛り、木材・木製品の調達に関し違法材をなくす方向を明確にし、違法材対策に前進したことを、私たちウータンは歓迎します。

ウータンやラミン調査会で、2004年より本格的に開始した『Stop Ramin(ラミン)キャンペーン』は、各地のNGOの後押しや政府方針が進みだし、違法材・密輸材ラミン使用の600社以上の企業の大半は停止を決めました。仕入先の停止で販売予定の企業も停止となり始めています。ラミンを未だに輸入・製造・使用の企業はあと僅か! 私たちウータンとラミン調査会は、違法材ラミンの完全停止がされるまで頑張ります。違法材1樹種が完全停止となれば、他の使用の違法材も使い難くなります。

私たちなどで実施したラミン材使用停止の主要120社へのアンケート(回答数59社)では、『ラミン以外の違法材らしいものは使わない/他材で違法と判明した時は使用停止』との回答の企業が9割近くとなっています。このように、『ラミン材使用停止キャンペーン』で違法材停止したことや、他の多くのNGOが違法材停止へ働きかけ、政府や国際機関の動きで違法材停止へ大きく流れ始めています。私たちが会議に参加したITTO、UNFFなどの機関も違法材対策に力を入れたのです。今回の「政府調達で排除」という流れが出来たら、日本社会の企業も変わらざるを得なくなります。

ただ問題なのは、①違法材を販売し続けた際、【入札など指名停止】や【違法材使用での違反規定】がイギリスのようにないため、自治体がどのように対処するかが問題(指名停止を検討という自治体も2005年に現れた)で、②今まで原生林破壊を許してきた合板連合会などもこの制度の監査機関を引き受けたいというように、一部での自主監査、第三者機関(?)の監査が曖昧になる恐れがあり、③『グリーン購入法』の取組みが全庁的に取組んでいるのは主要都市だけで、一部の県庁都市や中規模以下の自治体では『G購入法』が全庁で取組まれておらず、町村では近年導入も進まず、検討もされていない自治体も多いのです。だから、もろ手を挙げて喜べない状況でもあります。

この4月から、『違法材対策を含むG購入法改正』や『木材・木製品の合法性・持続可能性の証明のためのガイドライン』をみんなにPRしていき、これらの法令をさらに改良していただくように提案していきたいものです。**【違法材はダメ、使うのはフェアウッド材】**をPRしていこうと進めています。

ウータンは今回、17年度までの【G購入法の分析】に時間を要し、意見書提出を見合わせました。

基本方針に合法要件盛り

合法性、証明書連鎖で

環境省は10日、グリーン購入法の調達品目とその判断基準見直し案を公表した。付随して林野庁が作成する合法性証明のガイドラインも公表。ガイドラインでは合法性の定義、証明方法、証明書の保管などを示すほか、今後、協議会設置でガイドラインを見直すことも明記している。

団体証明は自主性重視 4月から適用へ

国産材及び外材の合である、という証明書
 法要件は、4月から
 のグリーン購入法から
 適用する。証明方法は
 森林認証、団体認定、
 大規模企業（製紙業な
 ど）の独自証明のいず
 れかで、業者は、合法
 証、が含まれる全ての

環境省は10日、グリーン購入法の調達品目とその判断基準見直し案を公表した。付随して林野庁が作成する合法性証明のガイドラインも公表。ガイドラインでは合法性の定義、証明方法、証明書の保管などを示すほか、今後、協議会設置でガイドラインを見直すことも明記している。

製材工場、2次加工業者、流通、納入などは、所属団体から「合法性、持続可能性証明書」を取得し、証明書番号、物件所在地（森林の場合）、樹種、数量などを取引ごとに明記し、証明書の連鎖から合法性を証明する。外材は生産国の法令順守が絶対条件。その上で、例えばインドネシアならBRIK（木材産業活性化機構）が輸出許可書などを管理しており、輸入業者はBRIKの証明書を取得し、その製品の生産国内の合法性を裏付ける必要がある。

グリーン購入の公共工事対象品目（木材関係のみ）は、製材等（製材、集成材、合板、単板積層材）と再

ことを求めるよう、産地によって混乱が生じそう。なお、4月1日以前に伐採業者と加工・流通業者が契約し、加工度が高い製品は、一定の経過措置を講じる見通し。

初！ 業界 集成材 抗酸化
 遠赤外線効果によりマイナスイオンを発生
TSC 株式会社 ティ・エス・シー
 〒292-0838 千葉県木更津市塩浜2-1-53
 TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349

PEFCの承認取得

S F I

全米林産物製紙協会（A F & P A）による「持続可能な森林イニシアティブ（S F I）」森林認証制度がさきこころ、P E F C 森林認証スキームプログラムの承認を得た。S F I を管理運営する独立団体「持続可能な森林経営評議員会（S F B）」が発表したもの。P E F C は、森林認証制度の評価及び相互認証を行う国際的統括

生木質ボード（P B）、繊維板、木質系セメント板）で、その判断基準に合法要件が追加される。これら以外のフローリングや天然木材化粧合板などはグリーン購入法の対象外で、従来どおりで調達される。ただし、グリーン購入法という政府調達で集する。環境省は31日までパブリックコメントを募集する。

森林生態系に配慮した木材調達に関する NGO 共同提言

世界の森林破壊の問題を憂慮する私たち日本の NGO は、建材、家具・建具、梱包・木箱、薪炭材などの木材製品を調達・販売、またはそれら木材製品を使用した建築物を発注するすべての企業や行政機関に対して、持続可能な社会の実現に向けた社会的責任および予防原則に基づき、木材生産地（伐採地）の環境・社会影響に配慮した木材の利用を推進することを求めます。具体的には、以下の6つの指針に沿った調達方針および時期や数値目標を含む行動計画（アクションプラン）を作成・公表し、さらに供給業者に対して同様の取り組みを要求することを求めます。また、木材製品の生産者、流通・小売業者に対しても、以下の指針に従った木材製品の生産や販売を進めていくことを求めます。

なお、木材の生産地への配慮をする一方で、長期間利用できるように配慮した木材製品等の調達や建築物の発注、およびリサイクル材などの有効利用が重要であることは言うまでもありません。

- (1) 調達しているすべての木材製品の種類・量・用途を把握するとともに、それらに使われている木材の生産地における森林管理などの情報をすべて明らかにする。また、それらの情報が明らかにならない木質原料でつくられた木材製品は使用しない。
- (2) 調達する木材は、最低限合法性が確認されたものでなければならない。
- (3) 調達する木材は、保護価値の高い森林の生態系を破壊するものであってはならない。
- (4) 調達する木材は、地域住民や生産従事者の生活や権利に悪影響を及ぼしたり、利害関係者との対立や紛争が生じている地域からのものであってはならない。
- (5) 調達する木材が産出される森林の経営（植林を含む）は、元来の生態系に重大な影響を与えるという点で、利害関係者との対立や紛争が生じている天然林の大規模な皆伐を行っているものや、周辺生態系に著しい悪影響を及ぼす除草剤や肥料などの薬品の使用、遺伝子組み換え樹種を使用したものであってはならない。
- (6) 調達する木材は、天然林、人工林にかかわらず、独立した第三者機関によって審査され、生産から消費まで追跡可能な、信頼における森林認証制度により、適切な森林管理が行われているとの認証を受けたものの利用を目指す。認証材が入手可能でない場合は、認証に向かって継続的に改善をしている森林からの木材を優先して利用する。

2006年2月20日

提言団体：

グリーンピース・ジャパン

国際環境 NGO FoE Japan

WWF ジャパン

（財）地球・人間環境フォーラム

熱帯林行動ネットワーク（JATAN）

☐ レイテ島地滑り

比の森林、30年で53%消滅 違法伐採、 地滑り誘発 中国へ密輸も

【バンコク＝岩田智雄】フィリピンで起きた大規模地滑り災害は、森林の違法伐採が原因の一つであることが指摘されている。フィリピンに限らず東南アジア各国ではこれまで、無計画な森林破壊が繰り返されてきた。過去、木材の主な輸出先は日本だったが、現在は中国向けが増え、その流通ルートには政治家や密輸業者が暗躍しているとされる。

フィリピンでは、一九六〇年代から七〇年代にかけて主に日本への輸出を目的とした大規模な森林伐採が行われた。最近でも、貧困による違法伐採や焼き畑が後を絶たず、過去三十年で53%の森林が消滅した。過去にも大雨による土砂災害がたびたび発生しており、環境保護団体は、地元有力者や政治家が業者と癒着して違法伐採をはびこらせてきたと指摘してきた。

カンボジアでは内戦時代、違法伐採された木材はタイへ売られ、ポル・ポト派などの戦闘資金になっていたが、現在は違法木材の多くが中国へ流れているとみられている。ロンドンに事務局を置く環境監視団体、グローバル・ウイットネスは違法伐採に政府高官が関与しているとする報告書を作成。地元紙カンボジア・デーリーも違法伐採をめぐるわいろが役人のポケットを潤していると指摘している。

カンボジアでは六〇年に国土の73%だった森林が二〇〇〇年には35-50%に減少したといわれる。魚の産卵場所を提供している水辺の樹木の伐採で、東南アジア最大の湖、トンレサップ湖の漁獲高が減少しているほか、メコン川流域では土砂災害を誘発し、二〇〇〇年には過去七十年で最悪の三百五十人が死亡した。

合同調査によると、インドネシアで生産される木材は、半分から四分の三近くが違法伐採されたもので、背景には密輸業者の横行や官吏の汚職があるという。

中国との関係を深めるミャンマーからも大量の違法木材が中国南部へ陸送されている。グローバル・ウイットネスの調査によると、木材の95%は違法に輸出されたもので、その量は年間百万立方メートルに及ぶと推測されている。

中国は自国での森林破壊が進み、洪水の発生被害が多発している。このため、国内での伐採を抑制する代わりに、東南アジアやロシアからの輸入を増やしている。中国の木材輸入量は、九七年には五千四百万立方メートルだったが、〇二年には一億二千二百万立方メートルと二倍以上になり、木材輸入国としては日本を抜いて米国に次ぐ二位となっている。

(産経新聞) - 2月20日

ボルネオ島に行く・・・

原生林と先住民の薬草を探して

(12)

15

—森の【^{ヤブ}藪医者】になる—

東悪男

【無造作に掛けられた毛皮、新種の動物か...?】

ドグと村長、プナン人の若者と道路封鎖したメイン道路跡から戻る。夕方、ドグの父親はえらくここにこしていた。なぜだとドグに聞くと、「ああ、明日は町から定期健診の医者があるからだ」と。

私は「どんな医者があるの？ 何人ぐらい？どこで泊まるのか？ 年に何回来るのか」と質問攻めにした。ガイドK氏から「プナンの村にほとんど医者が来ないので、薬草を利用する診療所が必要なんだ」と聞いていたから。

私の問いにドグは、

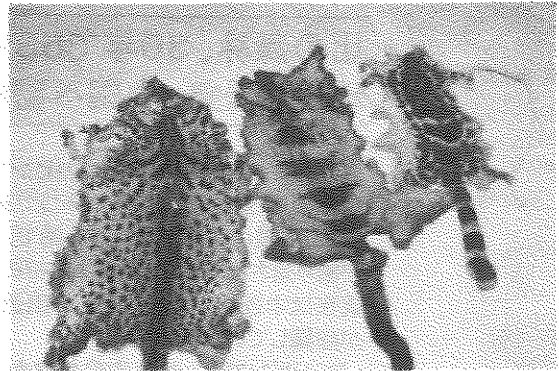
「そうだなあ、私は出作り小屋に暮らすこともあるし、今は出作り小屋でなくNewホテルに住むから、年に何回かは知らない。2-3回と思う。どんな医者といっても、診てもらったことがない。村の連中に聞くと大変良い医者だと言っていたが、明日見に行かないか」と。

面白そうなので、「明日、見に行こう」と、うすいコーヒーを飲みながら答えた私。

今日は疲れたと、土間に座り込んだ。見たこともない獣の毛皮が開き戸に吊り下げられていた。

「えっつ、このような動物がいるのか、いつ仕留めて、吊ってあったのか。この動物は見たこともない。ひょっとすると、新種かもしれない」と私。写真を何枚も撮る。この動物の毛皮は、ずっと前から掛けられていたが、開いた戸の裏側になっていて気がつかなかったのだ。

今宵遅くに、ガイドKが欧米人ガイドとしてこの村に到着する筈だが、まだだった。



【医者への到着が遅れ、藪医者をする】

原生林を毎日眺められる朝だ。私は、今日もドグの父の家に泊まる。隣りが村長の家。このプナン人の住居はロング・ハウス(長屋)でなく、家族単位で家を持っている。村長の家に行く。

2日前、ミリ市から一緒に来た村長の息子ジミーが「サラマツ・パギ(おはよう)」と声をかけてきた。村長も「やあ」と言ってくる。私は「パギ(おはよう)」と挨拶を交わす。ジミーに通訳を頼む。

「医者は何時にくるのですか」と聞く。

村長は「医者たちは、他の村も廻ってから来るので、たぶん昼過ぎだろう」と。

「村でどんな検診をするのですか」と、私。

「主には内科だ。怪我をしても、薬草がいっぱいあるから心配ないが、内臓の詳しい検査などは村で直せないことがある。それから眼科、小児科。村から町の病院に行く場合もお金がいっぱいかかるから、喜ばれる。しかし1年に4度しか来ないのが残念だ。診察を見に来てよ」と村長。

昼になってやっと医師団が来た。6名。州都クチンの医師という。汗を拭きながら、年長の医師が答えてくれた。私は「見てよいか」と聞くと、「ぜひ見に来てほしい」と返答する医者。

新しく教会になる建物に、既にここの村人だけでなく、あちこちの村からプナン人らがやってきていた。満員に近い。要望度が高いのだ。

ジミーが知らせに来た。「医師たちが疲れているので、30分遅らせて診察としたい」と。

村人は診療が遅れることに文句もなく、にこにこしている。中には診察が遅れるのなら、もっと良い服に着替えて来ようという人もいた。

私はあまりにも手持ち無沙汰であった。

ドグが昨日少し足を痛めて、今朝も痛むというので、私は彼の太ももを揉み解すマッサージのようなことをする。ドグは気持ちが良いという。すると、ドグの友達やサダンも肩が痛いから一度マッサージしてほしいと。

私は「OK」と答え、まずサダンの体全体の筋肉の状況を触る。

プナン人は筋力が強いが、重いものをぶっ続けに運んだり、提げたりしているからか、硬化していた。つまり欧米人プロレスラーのように筋力が固くなって、アントニオ猪木のように柔軟性に富む体でなかった。筋肉隆々のサダンは、四十肩のような状況で、腕をグルグル回せないことに気づく。

私は何度もなんども彼の肩や背、腕の筋肉を揉み解す。15分ほどかかってから、サダンは腕をグルグル回せるようになった。もう一人のプナンはきっちり腕を回せないが、両手を真っ直ぐ上まであげられるようになる。私はストレッチしなさいと言う。村人がびっくりしたように注視している。

私は「医師でない」と言ったが、医師たちがまだスタンバイ出来ていないこともあって、私の前に村人の列が出来てしまった。

医師たちがやってきた。私のマッサージを少し眺めていたという。それで年長の医師が、

「私たちの医師にマッサージをする者がいない。ぜひ貴方も加わってほしい」と頼んでくる。

どうしよう。

目の前にプナン人が並んでいたの、私は

「医者ではありません。村人の友人として、今日は協力させていただきます」と答えた。

ああ、プナン村の藪医者者の始まりだ、、、。

【ストレッチや柔軟体操が必要】

医師たちの診察が始まった。眼を診てもらいたい人、内科を診てもらいたい人、様々だ。

にこにこしながら、ドグは言う。



「藪草が村の周りがあるが、藪草だけで病を治せない場合があるからさ。産後の女性や老人の要求が高いと思う。」

私はドグの話を聞きながら、5人目のマッサージをする。今マッサージしている老女も筋肉がこわばり、肩が上がらない。体全体を揉み解し、特に肩、腕をマッサージ。聞けば、若い時から重たいものを毎日持っていたからだという。彼女も五十肩のようだったが、約20分でかなり良くなり、毎日繰り返して体を揉み解すよう伝える。

1時間半ぶっ続けて、「藪医者」をしたものだから、私の指や肩がしんどくなり、休憩と告げる。

小休止後、また「藪医者」を始める。医師団が続けてほしいと言うものだから…。こんなに人気になるとは思わなかった。聞けば、マッサージやストレッチする方法をプナン人が知らず、医者たちもマッサージする人が奥地まで巡回に行かないから。

夕方4時半、大休止。まだ多くの人たちがいる。「診てほしい」と村長に言っている。村長は医師団に何時まで可能かと聞いている。

私は「これが最後の人だ。疲れた」と告げる。

暗闇が訪れだした。鶏がざわめく。あちこちの家から食事の臭いがする。まだ医師団は継続して診察している。午後6時半、人々はまだ並んでいるが、村長は「今日は終了！ 続きは明日だ」と。

疲れた医師団と私の前に、村長やあちこちの家から食事が提供された。突然、暗がりからガイドK氏がやってきた。「マッサージしたの。驚いた」。

私は戸外へ出た。タバコに火をつける。

疲れたからだろう、今晚の夜空は特に綺麗な。

ボルネオ島に行く

⑩

原生林と先住民の薬草を探して(13)

—森の仲間たち—

東 悪男

【優しい医師団】

昨日からの診療が、翌朝の8時から再開された。

予定より1時間早く開始したことを村人に知らせていなかったのに、もう列が出来始めている。医師団は今日の昼に帰るから。そして、違う奥地の先住民の村を巡回するという。

「内科、外科、小児科、眼科の医師が来られています、マッサージや整体での治療をする医師はクチンの病院にいないのですか」と、医者たちに尋ねる。

「整体は、医師としては私たちの病院にいない。マッサージで直していくのも重要とわかった」と一番長く勤めているチャンさんが言う。

昨日、藪医者をしてしまったので、私は今日も借り出されてしまった。私のところに並んだ人は8名。みんなマッサージが希望である。

ここまできたら断れない。傍はドグやガイドのK氏、サダンたちだ。よく見られると、藪医者もやりにくい。

「8人はしんどい、6名に減らせないか」とドグに伝える。

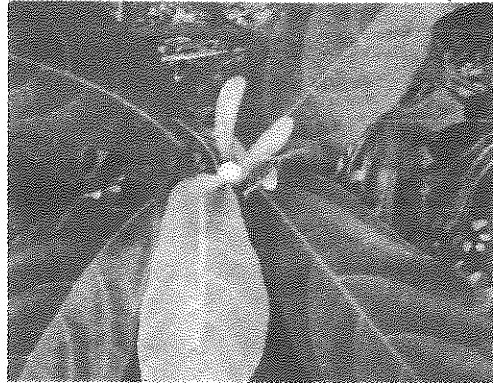
一人目のおばあさんも肩が上がらない。二人目のおじいさん、三、四人目の40過ぎの男の人も肩が硬くなり、腕が真っ直ぐ上へあがらない。昨日からの見立てでは、みんな同じ症状だ。手が真っ直ぐあげられないのだ。重労働が続くのと、屈伸、柔軟体操を知らないためであろう。

私はドグを通じてブナン語で伝えてもらう。

「ぐるぐる腕をまわせるように、毎日訓練してほしい。軽い体操を毎日5、6分したら、今度は腕が固まらず、自由に動かせられる」と。

約2時間、藪医者で応援した。まだ、医師団は

商業用伐採木とされるカポール(果実) ニ科科科



診療を続けている。日が差し始め、温度がどんどん上がり、汗をかきながらの診療だ。

11時過ぎ、終わりが近づいた。村長が言う。

「おおくの皆さん、他の村からこの村までお越しくださいありがとうございます。医師の人たちは、午後違う村で診療があります。まだ並んでおられる人たちがいますが、診察はおしまいです。

もし直せられる怪我なら、私たちがとりあえず使える薬草をあげます。眼科の治療についても、余程悪い症状でない場合、来ていただいた人を診断します。どうしても深刻だという人、2名のみ、受診してください。医師にもう一度依頼します。

皆さんは、住んでいる村、住んでいる家が異なっても、森に暮らす同じ仲間ですから、..

森林は多くのものをもたらせます。しかし、この森での薬草でも直せない病気があります。そのために私たちは、ここにお見えの医師の人たちに、次回3ヵ月後にまた来ていただくようお願いします。」

多くの人たちは納得して薬だけをもらう。4名だけはどうしても診療してほしい、と村長へ懇願し、息子のジミーが医師に伝える。

医師たちの「OKだ」との返答に拍手が沸く。

【森の重要性】

午後、ガイドのK氏は「体調も戻ったので森へ行く」という。昨晚到着したK氏に連れられてきた外国人2名は疲れていたらしく、12時前に起きてきたからだろう。

私は「ドグら村人と行きたい」と告げる。

「仕方ない。外国人をガイドする」とK氏。

K氏と外国人2名が先に出発。1時間後、かんかん照りが止んで、ドグと私が歩き出す。行き先はほぼ同じ村の方向だが、違う森に向かう。

バナナがたわわになっている。遠くからサイチョウの鳴き声がする。ドグは村の近くで声を聞くのは久しぶりと言う。

私は藪医者をして疲れたこともあって、ハイキングのような森歩きは気持ちよく感じると伝える。

水分が多い風が流れてくる。空が淀んでいる。

「雨だ。30分以内に豪雨が来る」とドグ。

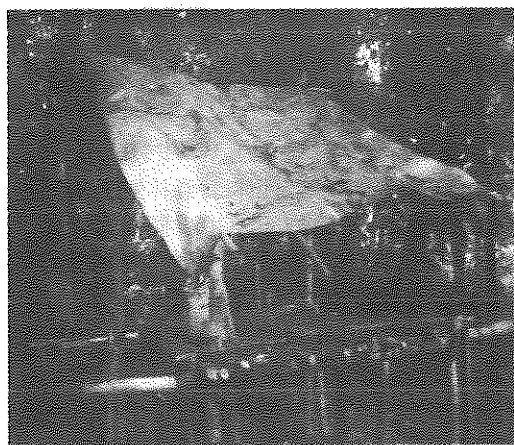
プナン人の皮膚感覚に驚く。ドグは足早になる。隣村の小学校の前を歩き過ぎ、あっという間に吊り橋を渡るドグ。『急ごう』と催促している。早足でも村に戻るまで、1時間以上かかるからだ。

さらにドグは足を速める。「豪雨が近い」という。

大木の脇に立ち止まり、籠に入れてあったビニールをさっと取り出し、鉋で灌木を払い、何かを作り出す。

「雨だ。ここに入れ。K氏らも雨に会っているだろう。たぶん彼らも利用するから」と。

プナンの仮小屋だ。以前、サラワク州の違う森で、仮小屋をジャングルで見た。全く同じだった。僅か15分で出来上がり。移動式のプナン人が1週間ほど1つの森に住む場合は、もっと大掛かりで何人も寝られるようにするのだそうだ。



プナン人の仮小屋

豪雨をまぬがれ村に戻る。K氏たちはやはりまだだった。日が沈むころに、ずぶ濡れの3人が戻ってきた。K氏はレインコートがしっかりと、服はあまり濡れなかったという。

今晚もK氏や私を含め3名の外国人がすごすというので、大層なご馳走をすする。

村長宅で始まる宴。明日、私は帰る。2名の外国人はもう2日森を廻りたい。

今晚まで遠くの村から来ているプナン人がいた。彼はバラム川の中流に住むという。彼の挨拶だ。

「多くの森が、木材企業に壊されている。森は私たちの命だ。しかし今、私たちの森はない。この村は、すばらしい森がある。森を破壊しようとする企業に、闘う多くの人々がいる。動物も多く捕れ、宴でのバプイ(野豚)はおいしい。私たちの村は、森林破壊後に多くの問題に直面している。

それは私たちが使用していた森を、油やしプランテーションにされたから。次々と破壊され、森は戻らない。森が死んでしまいそうだ。

今回、医師団の診療があると聞き、ここを訪れたが、森を守る重要性を確認した。多くの薬草があることに驚いた。少しでも森を復元したい。」

もう一人のプナンの仲間は、

「私たちは、ここより奥のインドネシア国境で暮らしています。私たちの森も一部を木材企業に破壊された。私たちが主に森で狩猟をして暮らしている。昨晚から暖かくなって感謝したい。

中バラムのプナン人の仲間が先ほど語っていたが、森の重要性を再確認した。薬草が多く取れ、医師もやってくる。今後この村をはじめ、多くのプナン村と繋がりを持つ取り組みをしたい」と語る。

村長は「森があれば多くの金が必要でない。大きな病気に必要な診療所や医師を我々も欲する。

果実もとれ、動物も村の周りで徘徊している。木材企業が原生林をほしいと言ってきたり、売り渡さない。我々は日常多くのものを欲しない。必要でないものを買う必要がない。今もこの村に多くの人が住み続けている。そしてこの村から分村して、常に交流あることが村の自慢だ。今後来ていただきたい」と宣言した。

(次回)は、最終回)

世界の森林ニュース

【FAO、2000-05年森林破壊続くと報告】

05年11月14日、FAO(世界食糧農業機関)は、2000-2005年の世界森林資源評価をまとめた。「世界の森は毎年1300万ha減少であり、1990-2000年よりやや破壊のスピードが落ちたが、依然として森林破壊すさまじい」と。(ITTOで資料貰う、FAOのHPより)

【AFP、フォーラム設置へ】

11月13-15日、アジア森林パートナーシップ(AFP)が横浜で第5回会議開催。参加のインドネシアTelapakが「メルバウの違法伐採・密輸」を報告。中国、マレーシア政府参加。「パートナー・フォーラム」設置決まる。(林野庁HP)

【ロシア、初の違法伐採問題重要と宣言】

11月28日、EU、日本、ロシア等政府、NGO参加の会議で、初めて違法材問題重要と宣言。ただ関係は宣言に参加せず。(全木連HPより)

【インドネシア、伐採割当量拡大】

12月15日、インドネシア林業相は違法伐採の減少、森林産業支援とし、06年の伐採割当量を30%増の1100万m³と決定。だが密輸が今も続く。(Jakarta Postなど)

【自民党違法材チーム、違法材排除策発表】

1月25日、自民党違法材対策チームがグリーン購入法を用い、【違法材排除】の方針発表。(フェアウッド・ニュースHPより)

【WBCSD、違法材排除行動策定実施と】

1月26日、スイス本部のWBCSD(持続可能な発展のための世界経済人会議)は180社参加のもと、違法材排除の対策を取組むと。(フェアウッド・ニュースHPより)

【FOEJらで「森林の見える木材ガイド」をHPへ】

2月初め、FOEJ(国際環境地球の友ジャパン)らで作る「フェアウッド・ニュース」に違法材ランク等をつけHPに公表。(フェアウッドニュースHP)

2005年11月-06年3月

(by 西岡)

【ITTA、違法材対策を新たな柱の1つに】

2月6日、ITTA(国際熱帯木材協定)は、ITTOの39回理事会をうけ、【違法材の調査、違法材対策の実施】を1つの柱にすると決定。(ITTO(国際熱帯木材機関)のHPより)

【インドネシア西パプアで極楽鳥など新種発見】

2月7日、コンサベーション・インターなどの調査隊は、インドネシアの西パプアのフォジャ山脈で幻の極楽鳥、新種の木登りカンガルーやカエル、数種の未発見の蝶、植物など数十種の発見を発表。(コンサベーション・InterHPなど)

【林野庁、『違法材排除のガイドライン』発表】

2月15日、林野庁は木材・木製品供給業者が違法対策への合法性・持続可能性を証明へとするように取組むための『木材・木製品の合法性・持続可能性を証明のためのガイドライン』を発表。合法性証明できない木材等と差別化するもの。(林野庁HPなど多数より)

【環境省、G購入法ガイドラインに違法材追記】

1月30日、環境省は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)」について、違法材対策として木材・木製品の合法性を証明できるものを環境物品に入れるために意見募り、2月28日閣議決定。4月から施行。(環境省HPより)

【FOEJ、JATANら『木材調達に関する提言』】

2月20日、FOEJ(地球の友ジャパン)、JATAN(熱帯林行動ネットワーク)、WWFジャパン、グリーンピースジャパン等5団体は「森林生態系に配慮した木材調達に関するNGO共同提言」を発表。建築企業や行政機関に、6つの指針に添った調達方針行動計画などを作成・公表等の取組みを依頼する予定。①調達している木製品の種類・量・用途の把握、木材生産地の管理把握、明らかでない木製品を使わない、②合法性が確認される材、③保護価値の高い森林破壊でない木材等の使用。(FOEJ、JATANのHP等)

ウータンの使い方から……

《会費、カンパを頂いた方々》(2005年12月13日～2006年3月16日) (敬称略)
 飯高輝 池田光司 一鷹要市 伊藤哲男 伊東万千子 井下祥子 上田真弓 鶴川まき 馬橋
 富男 大西裕子 岡本昭子 恩地典雄 加藤憲司 金沢謙太郎 鍋木里子 木村久吉 後藤裕己
 下山久美子 田岡めぐみ 田村節子 千代延明憲 津田妍子 恒成和子 寺川庄蔵 中司幸則
 中村義明 西園千春 平野誠 藤岡正雄 H.F. 二本洋子 松本剛一 麦島貴美子 望田敬子
 湯川れい子 吉田千里 渡邊晋 (ありがとうございました)

《おたよりから》 (敬称略)
 ☆皆様の地道で熱心な活動の成果ありがとうございます。 2/25 (岡本昭子)
 ☆金沢では辰巳ダム建設のため、行政が改悪した土地収用法をふりかざして、活発に、強引に、一
 坪地主の土地を強制収用しようとしています。82才は引退の身と思いましたが、また運動はじ
 めてます。カリマンタンの日本企業のこと思い出しました。 12/22 (木村久吉)
 ☆今年も力強い活動を期待しています。 1/12 (千代延明憲)
 ☆西岡さん中心に世界を相手に交渉するウータンの信念を、応援しています。本当に人の生きる権
 利とは何かを考えさせられ、原点に戻る自分でいたいと思います。 2/1 (西園千春)

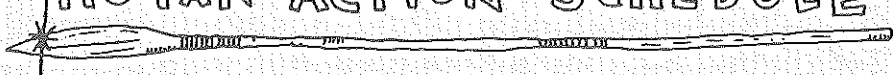
2005年度決算

収入		支出	
繰越金	208,529	会報製作費	178,450
会費	328,000	送料(切手カンパ約1万円含む)	79,750
カンパ(切手カンパ約2万円含む)	398,000	事務所家賃	144,000
物品販売	3,894	他団体への協賛金等	25,500
講師派遣謝礼	100,000	冊子印刷	81,900
地球環境基金(2005年4月～11月)	971,000	地球環境基金	971,000
パタゴニア基金	200,000	パタゴニア基金	200,000
その他	1,600	事務費	39,275
計	¥2,211,023	その他	1,680
		計	¥1,721,555
2006年度へ繰越	¥489,468		
(切手カンパ約1万円含む)			

森の救援基金2005年度

収入		支出	
繰越金	819,032	ブナグループへ	
カンパ	183,000	小学校建設の補助	30,000
計	¥1,002,032	裁判闘争への支援金	20,000
		計	¥50,000
2006年度へ繰越金	¥952,032		

HUTAN ACTION SCHEDULE



アースデイ(地球の日)記念イベント!!

Earth day Osaka 2006

- ☆アースデイ大阪・2006 各種イベント、リサイクル店など、
- 4月29日(土) 午後1時半—4時半 OBP(大阪ビジネスパーク)ホール
最寄り駅・JR京橋駅から環状線沿い内側を南へ約7分
JR大阪城公園駅から環状線内側を北へ8分

お知らせ・・・昨年末と今3月末に報告書作成。送料でカンパ500円

希望者へ10名先着順、連絡はFaxかメールをお願いします。連絡先*西岡

*Fax)072-252-0505 *メール)fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp

*『Stop Ramin Campaign2』—大半が英語。ITTO(国際熱帯木材機関)等へ参加者へプレゼントしたものです。

*『【やれば出来る! 違法材ラミン材の使用停止】(完結編)と新規違法材調査』—



ウータン・森と生活を考える会

[OFFICE] 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36

サクラビル新館308

「関西市民連合」気付

Tel.06-6372-1561

(HP)www.hutang.org/(mail)fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp

【一部】1300円 【年会費】4000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。